

協会新年会開催



正月5日にあたる令和6年2月14日（水）午後4時から、松江エクセルホテル東急で新年講演会と交流会を開催しました。新年会には、94人が参加しました。また公務多忙にも拘わらず、総務省中国総合通信局情報通信部長川崎信治氏、経済産業省中国経済産業局地域経済部長下出政樹氏、島根県議会農林水産商工委員会委員長吉田雅紀氏、島根県商工労働部次長大畑光延氏、松江市副市長山根幸二氏、公益財団法人しまね産業振興財団代表理事理事長馬

庭正人氏ほか多数の来賓の方々のお出席を頂きました。



新年講演会は、井上浩協会代表理事会長の挨拶で始まりました。たまたまホテルに居合わせていた錦織功政氏元財務省中国財務局長（次期衆議院島根県第1選挙区議員補欠選挙自由民主党公認立候補予定者）が急遽登壇、挨拶をされました。来賓の方々のおあいさつの後、新年会の講演を、西日本電信電話株式会社島根支店 支店長小田晃弘氏に「生成AIの活用について」と題し、行って頂きました。

小田氏は講演で、まず、生成AIをテキスト生成AI、画像生成AI、CODE生成AIに分類され、画像生成AIが近年急速に伸びていること、生成AIの本質は確率的推量であって、正しいものを選択しているわけではないことに留意すべきだと指摘されました。



ビジネス利用については、議事録作成やマニュアル作成、キャッチコピー作成等での利用が進んでいるとされ、その際に注意すべき事項として、社内機密情報の学習について、入力段階で、制限することが必要とされました。また著作権法については、生成段階において、著作物として責任と義務が一般的にあり注意が必要とされました。

講演は、最後にNTTが現在進めている取組の紹介があり、1時間ほどでしたが、直近のAIに関する留意点等分かりやすく話をして頂きました。



講演会終了後、88名が参加し、新年交流会を開催しました。交流会は、福光靖代表理事副会長が開宴の辞を述べ、来賓挨拶を頂いた後、公益財団法人しまね産業振興財団馬庭正人代表理事理事長の乾杯の発声で開宴しました。2時間ほどの交流会は、恒例となった北村功代表理事副会長の音頭取りで「猪木締め」でお開きとなりました。

